

令和6年度本町の現状把握のための町民アンケートの意見に対する対応方針について

※町民アンケートの「御意見・御感想」について、その内容ごとに大枠でまとめ、その対応方針を記載しています。

資料2-3

No.	御意見・御感想等	対応方針
「き」 築いてきた美しい里山の景観、伝統文化、生業を次世代に引き継いでいく里		
1	温泉源の使用に制限はしているのかなど気になる。	温泉源の使用に関する権利は、一般的に土地の持ち主や温泉源の管理団体等に帰属するものとされています。 つまり、公共の福祉に反しない限り、この権利を制限することはできないものと認識しています。
2	自然豊かな姿を保っているか。身近に感じるのは志賀瀬の蛍の数が減ったこと。災害などの自然環境の変化の影響もあるが、蛍を守る取り組みをしてほしい。	蛍の減少について、水質の悪化が問題として指摘されることがあります。しかし、蛍は水がきれいすぎても汚れすぎても生息できないデリケートな生き物でもあります。 今生息する蛍を減らさないよう、蛍の生息に悪影響を与えないような環境保全に今後努めてまいります。
3	ごみのポイ捨て、外国人客のマナーが悪い。	ごみのポイ捨てについて回答します。ポイ捨ては、本来不法投棄と呼ばれる不法行為です。そこで、行為者に対して、自身が不法行為を行っている自覚を促すよう、ポイ捨ては犯罪であると明記された看板を設置するなど、対策を実施しているところです。
4	農業をやりたいと言っている学生が周りにいない	若者がやりたいと思えるような、魅力ある農業・魅力ある農産物の開拓、発信を行ってまいります。
5	野焼きについて現在は町内外のボランティアの協力により成り立っているが、次のような課題が浮かび上がると思います。責任者の高齢化ベテランの知識が属人化し、若手への継承が進んでいない。ローカルルールの不透明さ、牧野ごとに異なるやり方があり、参加者に十分共有されていない。ボランティアの知識不足、誰でも参加できるがゆえに、安全面や基本操作の理解にばらつきがある	ボランティアをまとめている阿蘇グリーンストックでは、野焼き支援ボランティア初心者研修会や、刈払機安全講習会を開催しています。ボランティアの方たちが自らの安全を守れるよう、継続して啓発してまいります。
6	高齢化が進み、引継ぐ人のいない事業や畠や家が増えているのが見てわかります。どうしようもないことだと思います。町外の人に水田を年間リース契約してもらい、町内の人が費用をもらって米づくりしてあげるというのはどうでしょう？かかる費用も出してもらえば損にはならず、ビジネスとして成り立ちます。できたお米も引き取ってもらえばいいと思います。これまでの奉仕のような考え方から、対策なビジネスになるのではないかでしょうか。実際、米づくりに費用はかかります。南小国町からこのようなスタイルを発信して、広めていけたらいいと思います。この意見はお米を作る側の人でなけばわからぬと思いますが、いかがでしょう。	ご提案ありがとうございます。農地維持に向けた新たなスタイル。南小国町からこうした取り組みを発信できれば、遊休農地の解消だけでなく、都市と農村を結ぶ新しい形の交流モデルにもなり得ると思います。契約方法や費用負担、収穫物の受け渡しなど制度設計に検討すべき課題もございますので、他事業との兼ね合いも考えながら、農地の維持に向けた施策を考えてまいります。
7	農薬、化学肥料、除草剤を使用しない、人の健康と地球環境を守る環境再生型、循環型の農法が全国的にも普及している。南小国町は菌ちゃん農法の吉田俊道先生をお呼びしたが、その後はどうなのか、町の取り組みとして進んでいるのか	菌ちゃん農法の講演会は、取り組みやすい農法の一つとして令和6年度に開催しました。今後も、いろいろな農法について情報を提供してまいりたいと思います。また、町内にも環境保全型の農業に取り組んでいる方もいらっしゃり、町でも県補助を受けながら支援をおこなっています。

No.	御意見・御感想等	対応方針
8	農林業に携わる後継者が少ない。特に林業の後継者が減少していく危険的状況なのでないだろうか。町独自で林業者を育てる機関を創るのはどうか。	南小国町で森林組合から仕事を受けて森林の伐採等の作業をされる方、いわゆる一人親方は最盛期で100名ほどいらっしゃいましたが、現在は約30名となっています。高齢化も進み、今後の南小国町の森林整備を安定的に行うためにも、林業の後継者育成は必須です。現在町としては地域おこし協力隊の受け入れなどを行い、地域外の方々の協力を得ながら林業の担い手を確保していくとともに、研修制度などを設け林業の技術取得に向けての支援を行い、またチェーンソーなどの林業機械の購入補助などを行っています。今後とも継続して林業者育成に向けた取り組みを実施してまいります。
9	農林業に仕事をする人が減っていて、耕作放棄地が目立っています。町の将来が不安です。	現在、耕作放棄地対策になる作物の取り組みを開始しています。今後、皆さんに正確な情報を伝えしていくよう、発信してまいります。
10	農林業と観光の町としての大きな2つの柱がブレず、魅力あるビジョンが明確だと働く人も意欲的になると思う。客観的にみて行政の農林業への推しが少し足りないように感じます。米価の問題が全国的に広がっています。農林業の町の南小国としても若手担い手の育成、休耕田の問題、補助金など…南小国ブランド(おいしい、安全、安価)※など一考お願いします。これから食糧問題を先駆けて考え実践する町になってほしいです。	ご意見いただいたとおり、農林業は本町の基盤ですが、担い手不足や遊休農地の増加、農業資材の高騰など深刻な課題を抱えています。今後は新規就農者の確保や現在行っている担い手の補助制度の活用を図りつつ、農業の持続可能性を確保し、町の柱として再び強く支えてまいります。
11	伝承・伝統文化を継承していく必要はあるのか。伝承した子供たちが町に残るような環境を整えていかないと伝承しているとは言えないのでは。	本町の貴重な文化や歴史、また地元の農林業や商工関係等について体験を通して学ぶ「ふるさと学習」は、児童生徒にとって豊かな心と郷土愛を育み、南小国町の未来の創り手を育成するための重要な体験活動の一つと考えています。これらの取り組みが本町の担い手の育成につながるように、短期的ではなく長期的に継続していることが重要であると考えていますので、引き続き段階に応じて継続して参ります。
12	道路の枝などが覆い被さり、狭くなったりしていて、自転車通学の子供たちに危ない。	本町では通学路安全推進協議会を設置し、毎年、学校・PTA・警察・道路管理者・防犯担当等による合同点検や会議を開催し、通学路の安全確保に関する取り組みを行っています。 児童生徒の通学路におきまして、危険箇所等がございましたら、各小中学校か教育委員会へお知らせください。
13	ハッハカ所巡り等、管理されていないところが多くもったいないと思う。	今後、関係課と協議しながら、整備に向けて前向きに検討して参ります。
14	移住者による農業や林業に関わる人を増やそうとしているものの住居が少なく、希望者が諦めざるを得ない状況になってしまっている事があるように感じます。	ご意見ありがとうございます。移住者に限らず、住宅や土地が不足していることは、本町の課題だと感じています。引き続き、空き家や利活用が可能な土地の掘り起こしなどを進めていきたいと思います。
15	人は増えてきてるのに住む場所がない。また定住をしたいのに土地が荒地だか宅地として使えてないように思います。	ご意見ありがとうございます。移住者に限らず、住宅や土地が不足していることは、本町の課題だと感じています。引き続き、空き家や利活用が可能な土地の掘り起こしなどを進めていきたいと思います。

No.	御意見・御感想等	対応方針
「よ」 寄り添い支え合い、人と人のつながりを大切にし、一人一人が誇りを持ち、多様な生き方を尊重しあえる里		
16	<p>・交流する場所(公園、コミュニティースペース)が不足しているように思います。早くJA跡地の開発が進むと良いなあと考えています。</p> <p>・町を行き交う人がいないと思います。人が交流出来る施設、店舗等増やす必要があるのでは?</p> <p>・きよらニュースなどを通して、4と評価しましたが、家にいる主婦として、実際に関わるのがほとんど無く個人としては実感が薄いです。Aマート跡地の活用はどうなっているのでしょうか?先ほど中学生が提案した様々な人々が交流する機会や場所の建物を創る提案は大きく共感できるものでした。学校を終えた子どもたちが安心して遊べる場、学べる場、大人、高齢者、幼児色々な職種の人が集まる場、健やかな体づくりができる場、文化・芸術と触れあえる場……いろんなことが考えられます。子どもが遊ぶ場がなく町外まで出かけたり出かける目的、場所もなく家に閉じこもってしまう高齢者…町民のくらしぶりを行政の方々はどれくらい把握されているのでしょうか?課題解決の為の施設を造っていただきたいです。</p> <p>・小さい年齢の子供も遊べる公園があつたらと思う。</p> <p>・色々な事はすごく良い町だけど町の中にお店が少なくて買い物が出来る所(歩いて行ける所)町の真ん中にあるといいと思う。</p> <p>・市原町に住んで60年になります。これ程不便を感じた事はないように感じています。スーパーも銀行も皆移動して町には活気が全然ないように思います。</p>	<p>JA跡地利活用の現状としては、6月にアンケート(町内に住民登録がある10代以上の各年代100名ずつ合計800名(無作為抽出)への郵送実施分+不特定多数の町民を対象としたインターネット実施分)を実施し、8月に町民代表者10名で構成される農協跡地利活用検討委員会を開催しアンケート結果を共有するとともにご意見をいただきました。</p> <p>これらの結果・ご意見を参考に、まずは、本年度末(R8.3.31)までに「基本構想」を策定し、その後、「基本計画→基本設計→実施設計」の策定を進めていく予定です。策定にあたっては、民間との連携(PPP/PFI)を考慮しつつ、JA跡地周辺の課題や将来のビジョンを整理し加味することで、町民の皆様にとって有益な施設となるよう努めます。</p>
17	災害の時に支援が必要な人が避難できる建物がりんどう荘以外にあるのか・足りないのではないか	町は、一般的な避難所では生活に支障を来す方のために福祉避難所を準備しています。 南小国町ではりんどう荘の他、サポートセンター悠愛、悠清苑、おぐに老人保健施設の計4箇所を福祉避難所として準備しています。
18	少子化、高齢化の問題は、南小国町でも課題だと思う	今後も、少子化、高齢化についての関連計画を定期的に見直し、アンケート調査の内容を、施策に反映してまいります。
19	夏は祭りなどが多くて、賑わいがありますが、日常的に交流や新しい出会いをするチャンスは少ないです。子育て中なので積極的にそういう場を探し出す時間がないのも問題です。暮らしの面では支援が厚くて助かっています。	今後、季節の行事等を通した交流や出会いについて検討していきたいと考えております。
20	子ども医療に関して、窓口負担ではなくせめて県内だけでも子ども受給者証を利用できるようにしてほしい。病院窓口、薬局窓口でスタッフに説明してもスタッフからの理解が難しいし毎回手間になる。	医療費助成の現物給付化の拡大が可能であるか課内で協議し、保護者の利便性の向上につながるよう検討を行います。
21	現状でも介護職の人数は多くはないと思うが、福祉施策充実の為にも将来的な人で確保は必要だと思う。	今後の労働力人口減少社会に対応するため、国や県の補助金の活用し、就労支援やICT化を推進していきます。
22	福祉に関しては、本当に利用した方がよい人はたくさんいるはずですが、いろんな問題があるので難しいですね。	地域包括支援センターの職員が要配慮者等の自宅を訪問し、各種福祉サービスの利用について提案しています。
23	高齢者のための交通手段の維持、拡充、買い物環境の設備がより重要だ思う。	町社会福祉協議会では、今年度から高齢者や外出が難しい方を対象とした「買い物支援サービス」を実施予定です。町も社協のサービス提供体制を維持するため、今後予算化を検討していきます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
24	一人暮らしの人に見廻り隊的な事を実行してほしいと思う	南小国町民生委員児童委員協議会と連携しながら町内全域で定期的に高齢者等見守り訪問事業を実施しています。
25	人と交流できる場所がその地域で小さな単位であるともつといいです。移動する手段(高齢者等)なく孤立化が進んでいると思う。	高齢者が定期的に集まる「通いの場」づくりを推進しており、各集会所での立上げ支援を行っています。また、社会福祉協議会では、ふれあいサロン活動も行って居りますのでご相談ください。
26	介護施設を増やしてほしい。	小国郷内の介護サービス事業所は、ある程度充足されており、希望があれば各種介護サービスを利用できる体制は整っています。利用希望者に対して、管内介護サービス事業所の周知を推進していきます。
27	福祉の充実は進められていると思いますが、生活の負担は軽減される所か日々増大している。たとえば主食の米の値上がり、物価上昇、円安等が所得の上昇以上である。したがって生活は苦しくなる。	国の物価高騰対策として、非課税世帯等を対象とした給付金支給事業を毎年実施しておりますが、対象者の拡大や上乗せ支給をするかについては今後検討を行います。
28	地域の祭りがあっても、だいたい終わってから知ることが多いです。お祭りがあると人伝いに聞いても日時や場所がよく分からなかつたりするので、特に移住したばかりの人は知る手段があまりないように思います。	町内のイベント等については、広報誌、告知放送、ケーブルテレビ文字放送、LINE等を活用し周知しております。今後も引き続き多くの方に情報が行き届くよう各メディアを活用し行っていきたいと思います。
29	運転免許を持たない人(返納含む)に対するタクシー事業は私の両親も通院に利用させてもらい大変助かります。プレミアム商品券は物価高の中大変助かります。町内でお金が回ることも良いと思います。	評価いただきありがとうございます。 今後もより利便性が高い取組となるよう検討して参ります。

「ら」 ライフラインを充実させ、地域全体で協力し、だれもが笑顔で安心して過ごせる里

30	車がないと生活できないのは仕方がないことだと思うので、特に困ってはいないですが、赤馬場エリアに子供と遊べる公園があればいいなと思っています。駐車場が増えているのですが、公園も欲しいです。	JA跡地利活用の現状としては、6月にアンケート(町内に住民登録がある10代以上の各年代100名ずつ合計800名(無作為抽出)への郵送実施分+不特定多数の町民を対象としたインターネット実施分)を実施し、8月に町民代表者10名で構成される農協跡地利活用検討委員会を開催しアンケート結果を共有するとともにご意見をいただきました。 これらの結果・ご意見を参考に、まずは、本年度末(R8.3.31)までに「基本構想」を策定し、その後、「基本計画→基本設計→実施設計」の策定を進めていく予定です。策定にあたっては、民間との連携(PPP/PFI)を考慮しつつ、JA跡地周辺の課題や将来のビジョンを整理し加味することで、町民の皆様にとって有益な施設となるよう努めます。
31	訓練が単なる慣例行事にならない様、ブラッシュアップと不要な行事は廃止が必要だと思います。	現在は、自治会長や組長が交代となることを考慮し、基本的な避難訓練、指定避難所開設・運営訓練を実施しています。 いただいたご意見のとおり今後はブラッシュアップしながら訓練を実施して参ります。
32	体制ではないが災害の時にペット可の避難施設を設置してほしい。	現在、町にはペット同伴避難に適した施設が無く、同行避難をお願いしています。 (同行避難) 避難場所まで一緒に避難し、ペットは車内などで飼育管理を行うこと。 (同伴避難) 避難所内で人とペットとが一緒に過ごすこと。

No.	御意見・御感想等	対応方針
33	災害時の町内の避難について役場の方が避難所を設置運営して下さる事は大変ありがとうございます。ただ大雨等自然災害時に安心して避難できる場所はないと思います。川の側の平屋ですよ。隣に二階建ての建物が出来たとはいえ赤馬場地区の全町民を収容できるのでしょうか？地域毎の集会場も状況によっては自宅に居るより危険を生むこともあります	避難とは難を逃れるということで必ずしも避難所に行くことではありません。自宅が安全な場合は避難する必要はありません。 ご意見のとおり災害の種別によっては、危険な場所に所在する避難所もあります。 町としても、災害の種類や規模によって開設する避難所を変更することや、他施設を増設することを想定しています。 今後もJA跡地の活用の中で、防災機能をもった施設の設置についても検討して参りたいと思います。
34	・避難場所が充実していない。熊本地震の時に役場の通路に寝ていた方が多かったのに今発生したら同じことになる。 ・災害時の避難場所等が整備されているか。 ・災害時の避難の仕方・場所が不安	町としても、大規模災害時の避難場所は課題であると考えています。 現在、可搬式の建物の導入やJA跡地の活用を検討し、大規模災害時の避難所や仮設住宅への使用を考えております。 豪雨災害や台風の場合、町は気象情報を基に早めに避難所開設を行い、避難情報を発令することで町民の方々がより安全に避難できるように努めています。 町民の方々におかれましては、防災マップ等により自宅の災害リスクを確認していただき、必要に応じて早めの避難をお願いいたします。
35	災害はいつも不安に思っております。	町は防災に関する事業として、防災訓練や防災士による防災学習、ケーブルテレビでの防災番組の放送などを行っています。また、令和7年4月には防災マップを更新し、各世帯へ配布しております。 町民の方々におかれましては、これら訓練への参加や番組視聴、ご自宅の災害リスクの確認をしていただき、避難経路や避難先の確認、備蓄品の準備など平時から災害に備えていただきたいと思います。
36	災害は誰のところにも起きる可能性があるので、町に1か所防災センターがあるとより安心だと思われる	JA跡地の活用について、防災機能を合わせ持つ施設の設置を検討して参ります
37	災害があった時の避難場所に太陽光の設置及び蓄電池の設置を考えてほしい。	町としても、災害時の電力確保は重要であると考えております。 これまで、避難場所となる庁舎への太陽光パネル設置も検討し調査を行いましたが、設置にかかる費用に対して十分な発電量が無いことを理由に断念しています。 今後も、技術革新等により発電効率の高い太陽光パネルの開発や、国の補助金の動向を見ながら設置を検討いたします。 その他学校体育館などの避難所への設置については、教育委員会と一緒に検討して参ります。 その他、現在町では避難所で使用する備品等についても強化を進めており、避難所で使用できるポータブル電源と充電用ソーラーパネルも新たに導入しています。
38	今後の医療機関の存続と交通手段の確保が不安。	へき地においては医師不足が課題であり、小国公立病院では医師の確保にご尽力いただいております。 今後は、病院受診の1つの手段として、更に医療MaaSの啓発・周知を行ってまいります。
39	道路に樹木や竹が覆い被さっていたり、電線に接触していたりする箇所があり通行に危険である。	道路の管理上支障のある樹木等については、所有者の責任も踏まえた道路法及び民法の規定に基づく伐採等を順次実施しています。また、国県道や電線に係るものについては、町から各管理者に報告を行っています。全ての箇所を一度に実施できるものではありませんが、必要であれば情報をいただければと思います。
40	河川に繁殖している多量の葦が洪水に影響しないか心配である。また河川際の倒木も気になる。	河川内の葦の多くは堆積土砂上に繁殖しており、県管理河川を中心に緊急性等を考慮しながら、堆積土砂と共に除去を実施しています。また、倒木については、河川断面を大きく阻害していたり、流出による下流への影響が懸念される場合は河川管理者で対応していますので、ご連絡または情報をいただければと思います。

No.	御意見・御感想等	対応方針
41	道路の急カーブの改良や離合箇所の整備を進めてほしい。また、舗装状態が悪い箇所や白線が消失しており通行に危険な箇所がある。安全に配慮した道路整備を行ってほしい。	道路の整備については、地元自治会等の要望を踏まえ、南小国町総合計画のもと優先順位や緊急性を考慮し整備を進めています。ご理解とご協力をお願いします。また、舗装の修繕や区画線の引き直しは毎年度対策工事を行っていますが、対応が遅れている箇所もあるかと思いますので、情報をいただければと思います。
42	インフラの整備にもう少し力を入れてほしい。より良いインフラ環境を望みます。	インフラ整備全般については、南小国町総合計画を踏まえ取り組んでいますが、橋りょうや上下水道、公営住宅等各施設の老朽化が急速に進んでおり、維持管理費用の増大が懸念されています。今後の人口減少等を見据え、施設の廃止や統廃合も含め、また、町議会とも協議のうえ進めています。
43	水道管や下水道管の老朽化に伴う計画的な再整備が必要である。	現在、南小国町簡易水道事業計画の見直しを行っています。その中で、優先順位を考慮し、老朽化による更新や水源の枯渇による新たな対応、耐震化についても検討実施しており、必要な事業を年度計画として進めたいと考えています。
44	一軒家には水道工事はしてくれない(引いてくれない)	水道整備ができるかどうかはわかりませんが、一度役場にお越しいただき、場所の確認や他の補助事業の紹介をさせていただければと思います。
45	以前から土砂崩れが繰り返している場所や、町管理の道路の崩れが自宅に影響しているが、いまだに改善されないで放置されている。	土砂崩れ等の対策工事は災害復旧事業にて行っていますが、採択基準があり全ての被害に対して対応できるものではありません。道路の崩れについては、既にお話をいただいていたり、対応に時間がかかり方針等をお示しできていない箇所があるかもしれません、必要であれば再度ご連絡をいただければと思います。
46	学校給食のオーガニック化、無償化したい	本町では、地元野菜や県産食材をできるだけ取り入れ、児童生徒の健やかな成長の源となる給食づくりに努めているところです。現在、小学生15,000円、中学生16,000円を超える給食費を町が負担することで保護者の負担軽減を図っています。無償化については、現在検討しておりませんが、今後、更なる子育て支援の一つとして検討していきたいと思います。
47	近所の空き家が心配される。空き家バンクもあるが雑草の荒れが心配される。清掃できるシステムがいるのではないか。	ご意見ありがとうございます。空き家の管理については、法律上、所有者等が自ら行うこととなっています。しかし、放置されることで近隣住民の方に支障が出ないように、町としても啓発活動を進めていきたいと考えます。
48	LINE、町のホームページの河川情報は有益であるが、もっと詳しく橋・カメラの位置を教えてほしい。自分の家ならどのカメラを見ればいいのかが分からない。	ご意見ありがとうございます。個人のプライバシー保護の観点も考慮し、場所の情報の公表については検討させていただきたいと思います。

「の」のびのびと学べる環境の中ですべての人が夢に向かって挑戦できる里

49	未来を担う子供達の子育て支援は、充実しているように思う。	ご意見ありがとうございます。今後も、こども家庭センターを中心に、妊娠期から子育て期にわたるまで母子保健や育児に関する様々な悩み等に対し、専門的な視点から切れ目のない支援を目指していきます。
50	子供同士高齢者同士で語りあう場所がない	旧グループホーム森園を改修し、多世代型交流施設として使用する計画を進めています。改修完了後に町民に対して施設利用に関する周知を行います。
51	高校や塾など進路を選択していく上での環境が小国郷に整えばと思う。	現在、本町では、小学5・6年生を対象とした「公設きよら塾」を開設し、基礎学力の定着に向けた取り組みや英語能力の向上に向けて取り組んでいますが、中学生を対象とした公設塾までには至っていません。今後、どのような環境整備が可能かを含め、前向きに検討を行っていきたいと思います。

No.	御意見・御感想等	対応方針
52	農業体験などをして、自給することの必要性や大切さ、食べ物のありがたさを感覚で受け取って欲しい。そして創造性、自立性を磨かせたい。	現在、出前授業や里山体験活動、農家民泊、まちインターン、また各学校における様々な体験活動を小中学校の9年間を通してふるさと学習を行い、郷土を愛する未来の創り手の育成を行っています。これらの体験活動を通して得た知識を活用し、状況に応じて行動し、意味ある学びを続けていくための力をつけ、予測困難な未来に柔軟に向き合えるように取り組んでいるところです。引き続き継続しながら、児童生徒の創造性や自立性に繋げていけるよう取り組んで参ります。
53	中学生でサッカーをしたい場合、遠方に行かざるを得ない(進学も同様)	残念ながら、現在、中学校の部活動の種目にサッカーはなく、他市町村の社会体育、もしくはクラブチームに所属しなければならない現状です。しかし、進学面については、小国郷内唯一の県立高校である小国高等学校を地域、後援会、PTAのみならず南小国町・小国町の両町がバックアップし、更なる高校魅力化の取り組みを行っています。また、近年、国公立大学進学者を多数輩出する実績も上げていますので、体験入学等に参加して小国高等学校の魅力を体感してみてください。
54	早く統合して、子供たちがたくさんの友人と学び遊んだ方がいいと思っている。	人口推計では児童生徒数は減少傾向にありますが、南小国町では小規模校のメリットを活かした教育を推進し、一人一人を大切にした教育を進めています。その結果、子どもたちの学力は大変高いものになっています。今後の町立学校の在り方については、検討会を設置し、保護者や地域の方、見識者等のご意見を伺いながら、本町の方向性を検討して参ります。
55	町図書室(コミュニティセンター)がもっと充実して、本がもっとあるといい。	今年度、図書システムを導入し、町民の方々の図書貸出の利便性向上を図る準備を進めています。利用開始や利用方法等については、広報誌等を通じて周知を行う予定です。また、町図書室の本は、町民の方々からのリクエストをもとに司書が選書し、新刊を導入しています。興味のある本がございましたら、是非、リクエストしてみてください！
56	地域で遊んでいる姿を見ていない。もし、日時・場所がわかれれば応援したい。	本町では、市原小学校と中原小学校で「放課後子ども教室」を実施し、放課後の子どもの居場所確保に努めています。週4日(平日の月・火・木・金)の午後3時から午後5時(学校行事により変動有り)まで中原小学校と市原小学校で行っており、ご協力いただける安全管理員を随時募集しておりますので、教育委員会までお問い合わせください。
57	子どもの行方不明も多いので、命を守る取り組みを入れていくべき。	学校では、警察と連携した不審者対応訓練や講習会、教職員による日々の指導や一斉下校訓練等を行っています。また、町の防犯パトロール隊員の方々による巡回や、登下校時の地域の方の見守りを行いながら児童生徒の安全確保に努めている所です。引き続き、学校と地域、保護者、行政が一体となって子供たちの命を守る対策を行っていきます。
58	現役世代が何かに挑戦しようとしたとき、応援する人ばかりではなく、足を引っ張るような声もあります。「出る杭は打たれる」そんな空気があると、挑戦したい人はこの町を離れていきます。「この町だからこそ挑戦したい」と思える理由がない限り、人は自然と、挑戦しやすい都会へと流れていくのではないかと考えます。	ご意見ありがとうございます。現在、夢チャレンジ補助金など新たに挑戦しようとされる方に向けた補助制度を行っております。今後も新たに挑戦をしようとされる方または現在検討している方に寄り添った支援を引き続き取り組んでいきたいと考えます。
59	夢チャレンジ補助金等を利用して起業された方々の生き生きとした様子が見ていてこちらも元気になります。	ご意見ありがとうございます。引き続き、町内での起業や新規事業立上げなどの支援を行いたいと考えます。
60	南小国町の夢チャレンジ事業はとても素晴らしいと思う	ご意見ありがとうございます。引き続き、町内での起業や新規事業立上げなどの支援を行いたいと考えます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
61	起業した人がずっと住んでいるのか、離れた人はいないのか、その人の話が聞きたい	ご意見ありがとうございます。町内で起業した方の話については、営業に加担しない範囲で情報発信が行えるように検討したいと思います。
「さ」 再生可能エネルギーを地域資源から生み出し、有効活用し、未来につながる豊かな暮らしを実現できる里		
62	南小国町の消費する電力と生産する電力はどのくらいか。災害時の電力の確保にももつとふやすべきではないか	<p>資源エネルギー庁が公表しているデータでは南小国町の電力需給量は2023年時点で年間31,980,000kwhとなっています。(※2025年4月24日公表の2023年度データ)</p> <p>また、2021年3月に南小国町再生可能エネルギー導入口ードマップを作成しています。当時の調査において資源エネルギー庁のFIT認定となっている本町内の太陽光発電設備の導入件数は115件、導入量は747kWとなっています。</p> <p>747kWは理論上、年間747,000kwhの発電量となります。(あくまでも理論上の発電量であり、実際の発電量とは異なります。)</p> <p>このロードマップでは太陽光発電、太陽熱発電、地熱・温泉熱発電、バイオマス発電、風力発電などの発電方法の中から、本町に適した再生可能エネルギーの導入可能性を示しています。</p> <p>その結果、本町で導入評価が高いものは太陽光発電、木質バイオマス発電となっています。特に太陽光発電については、小規模なものは導入時のハードルも低く、分散電源確保のためにも導入促進するべきとしています。町としては、脱炭素や災害に強いまちづくりの推進のため、住宅等への太陽光パネルと蓄電池を設置する場合に補助金を交付しています。</p> <p>大規模な太陽光パネルについては、発電量は確保できますが、景観に影響を与えることや、場所によっては災害リスクを生じさせる可能性があること、農地転用を伴う太陽光パネルの設置は農業衰退につながるおそれもありますので慎重に検討する必要があります。</p> <p>また、木質バイオマス発電については、間伐材や未利用材等を活用することができるため、林業を産業とする本町においても、非常時の電源確保だけでなく、地域経済への効果も期待できます。</p> <p>今後もこのロードマップを基に町内でエネルギーを生産する取組みを進めて参ります。</p>
63	再生の努力は進んでいると思うが温暖化が進んでいる以上はまだ不足と思わないといけない。	<p>地球温暖化の要因の一つと考えられているCO2の排出に関して、2022年時点で、日本は世界の排出量の2.9%を占めており、これは世界5位の値となっています。(上位4か国の合計は57.2%) このような状況において、わずかでもCO2排出量の低減に貢献できるよう、本町では再生可能エネルギー・システムの導入を推進する取り組みを実施しているところです。</p> <p>今後も、本町に馴染む方法で地球温暖化防止に貢献するため、新たな取り組みを検討・推進いたします。</p>
64	林業従事者の一人として、間伐中に出る廃材(元曲がりの切り捨て部分)などが大量に出る為、それらの材を有効活用できないか?例えば、切り捨て材を買取り地域通貨に変え、燃料代の足しにするなど	南小国町では令和6年に「バイオマス産業都市」の認定を受けたことにより、今後10年の木質バイオマスの熱利用に向けた取り組みを計画しております。間伐中に出る林地残材を燃料として活用することも計画の一部としており、温泉施設の薪ボイラの導入などを実施した際の燃料としての活用が期待されます。薪の確保にあたっては地域通貨などを用いて買取りを行うなど、全国的に実績をあげている取り組みもありますので、こういった事例を参考にさせていただきながら、南小国町での取り組みを進めて行きたいと思います。
65	木材工作品を目しますが高額な物ばかりで一般人には手が出せない。もっと木に対する心とか木のみ力等々今の人達や子供達には通じてないのでは	南小国町では令和6年度より子どもたちに木や林業のことについてより深く学び、親しみをもっていただこうと、保育園生から中学生までのそれぞれ1学年ずつに「木育授業」を実施しております。低学年では木あそびやノコギリや釘の取扱い、また年代が上がると実際に山林に入り伐倒現場の見学を行うなど、各年代に応じた授業を保育園や学校側と協力しながら取り組みを行い、今後も生徒の学びと林業の魅力発信につなげたいと考えています。
66	再生エネルギーに関しては町民の知識の浸透も現時点で薄いように感じる。私自身もだが、再生エネルギーとその資源に关心を持つてもらえるような機会が増えれば。	総合計画の取り組みでの周知のほか、再生エネルギーの情報をもっと周知できるよう取り組みを進めていきたいと思います。
67	太陽光(蓄電池)に対してここ20年分の補助金である。もう一度見直すべきだ。	ご意見ありがとうございます。太陽光の補助金については他市町村の補助内容等鑑みまして、補助金の増額などを含め検討させていただきます。

No.	御意見・御感想等	対応方針
「と」 共に連携し、世界とつながり、世界に誇れる幸福な暮らしができる里		
68	移住希望者や若い世代を受け入れるには、住まいや土地が圧倒的に足りないと思います。空き家の解体を進めて、土地の流動性を高めないと住む場所がなくなります。	ご意見ありがとうございます。移住者に限らず、住宅や土地が不足していることは、本町の課題だと感じています。引き続き、空き家や利活用が可能な土地の掘り起こしなどを進めていきたいと思います。
69	移住したい人は増えてるが、空き家はあるのに、マッチングがうまくいってない。地元の持ち主と繋がりを持たせる仕組み、コーディネートをする人が必要。	ご意見ありがとうございます。令和3年度から移住定住コーディネーターを設置していますが、空き家の掘り起こしや空き家バンクの拡充含め、取組みを強化していきたいと考えます。
70	移住者の方々が増えているのはうれしいことだと思います。その方々が住む家をもう少し考えてあげた方が良いかなと思います。(移住者の方と話していくよく耳にします)	ご意見ありがとうございます。移住者に限らず、住宅や土地が不足していることは、本町の課題だと感じています。引き続き、空き家や利活用が可能な土地の掘り起こしなどを進めていきたいと思います。
71	近年外国人の移住者と思われる人が増えていると感じる。人手不足によるものと理解しているがそういう人達の為にも交流の場を作れると良いと思う。	ご意見ありがとうございます。外国人の移住者の定着に向けた支援も検討していきたいと思います。
72	対外的な戦略がうまくいっていると思います。町の魅力をこれからもたくさん発信し、ファンを増やしてほしいです。	評価いただきありがとうございます。今後も町の魅力を多くの方に知っていただくよう事業を進めて参ります。
73	南小国町に住んで本当に満足しています。高齢者も増えて次世代に次ぐ後継者不足はさめませんがみんなで知恵を出しよりゆたかで平和なよい町が存在出来る様、誇りをもちこれからも南小国町を好きでいたいと思う。	評価いただきありがとうございます。町としても安心して暮らせるよう様々な施策を今後も進めて参ります。
74	観光客で道路が渋滞する。拡張が無理ならせめて見通しが良くなるようある程度樹木の伐採管理をしてほしい。又、害獣被害がひどく、根本的に獣の個体数を減らす対策をしてほしい。野菜が何も育たない。	イノシシやシカの有害鳥獣対策につきましては、畑や田への侵入を防ぐ電気柵や金網柵の補助などを行い、また地域ぐるみの取り組みを進めるため、専門家を交えて地域住民の話し合いや対策などを行う「えづけStop！」対策を行っています。しかしながら絶対数を減らすための駆除活動については捕獲隊の人数減少や高齢化により、捕獲頭数の頭打ち、後継者育成や技術継承に課題を抱えています。狩猟者の新規加入や育成に向けて引き続き取り組みを行ってまいります。